

実物資料でたどる近世の服飾

く描かれた服飾・残された服飾く



飯島礼子氏（奈良県立美術館主任学芸員）

日時 平成二十五年一月二十四日（木）

十四時四十分～十六時十分

会場 奈良女子大学 E261教室

江戸時代の人々はどのような衣生活を送っていたのだろうか。

小袖（きもの）に日本髪という漠然としたイメージから一歩進んで、

文献や絵画などさまざまな資料を読み解いていくと、

当時の服飾がバラエティに富んでいた様子がうかがえる。

この講演では、当時の絵画資料に描かれた服飾、

そして現存する服飾資料を通して、

江戸時代の装いのありように迫る。



「波に千鳥裾文様振袖」

京都府立総合資料館蔵（京都文化博物館管理）